

## 日本植物園協会ナショナルコレクション申請書

新規申請

更新申請(認定番号      認定期間      年      月      日～      年      月      日)  
(いずれかに )

■申請年月日

2021年 7月 31日

■コレクションのテーマ

江戸椿を中心とする国営武蔵丘陵森林公園のツバキコレクション

■申請団体・申請者名

国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園(森林公園里山パークス共同体)

■申請団体の代表者名(個人での申請の場合は不要)

非公開

■申請団体・申請者の連絡先(住所、電話、メールアドレス)

非公開

■コレクションの所在地(コレクションが分散している場合は主たる所在地)

埼玉県比企郡滑川町山田 1920

国営武蔵丘陵森林公園内 椿園および第二苗圃

■現地審査希望時期

2022年 3月中旬 ～ 2022年 4月上旬

希望する理由:主だった椿が開花する時期であるため。

## ■コレクションのテーマ

江戸椿を中心とする国営武蔵丘陵森林公園のツバキコレクション

## ■コレクションの概要

国営武蔵丘陵森林公園は、明治百年にあたり国が、明治百年事業を全国民的規模において行うこととし、記念事業の一環として、304haの広大な武蔵丘陵に全国で初めて整備した国営公園である。1974年に国営武蔵丘陵森林公園は開園し、1976年より都市緑化植物園(約45ha)の建設に着し、整備に合わせて西武造園からツバキの様々な品種を苗木で第二苗圃に導入した。10年以上が経過し苗木の生育に伴い第二苗圃が手狭になったため、1993年から新しく約2haの椿園を造成しツバキの移植を行い、1995年に完成した。

公園内には第二苗圃と椿園の2か所のツバキの見どころがあり、江戸椿を中心に約500品種のツバキがある。現在は、日本ツバキ協会と連携し、品種同定や新たな品種の導入に努めながら継続的に管理を行っている。約40~50年間経過して、大きな個体は幹回りの胸高直径が130mmを超えるような古い株も含む、約2000本を保有している。第二苗圃では樹高を一定の高さに抑えるように剪定し、出来るだけ目線の高さで花を觀賞できるようにし、例年11月中旬~4月中旬の開花期に公開している。一方、椿園はマツ林下に自然樹形で育てて通年公開している。開花の最盛期には、ガイドツアーやツバキをテーマとした企画展示を行っており、好評を博している。

「江戸椿」とは、二代将軍徳川秀忠が全国から美しいツバキや珍しいツバキを集め江戸城に植えたので、大名、武家、豪商の間にツバキを好む風習が広まり、元禄、文化文政年間にはツバキが流行し、江戸時代を通じて全国から集められたツバキを基に主に染井村で作られた豪華な重弁の花や洗練された美しさを持つ多彩な品種の総称である。ツバキの園芸品種は1695年から1733年の間に染井村の伊藤伊兵衛父子が著わした園芸書「花壇地錦抄」などの古典によると200余の品種があったとされる。1800年代には繁亭金太「草木奇品家雅見」(1827年)、糺屋亀五郎「椿伊呂波名寄色附」(1859年)などにもツバキの品種が含まれる。

明治に入り、染井に残されていたツバキを集めて植木職人伊藤小右衛門らにより1879(明治12)年に木板一枚刷りで発行された「椿花集」が江戸椿の集大成である。「椿花集」は花形別に分類し、簡単な記載とともに品種名を載せている。

日本ツバキ協会と当公園は、この「椿花集」をもとに、江戸椿の同定を行っている。当公園においては128品種の江戸椿を保有しており、江戸椿の品種数としては関東地方においても有数の規模となる。江戸七木の「沖の浪」(おきのなみ)、江戸五木の「唐錦」(からにしき)やシーボルトが「トライカラー」と名付けて持ち帰った「蝦夷錦」(えぞにしき)などの古典ツバキ、「椿花集」で新花の部に載せられている紫椿(むらさきつばき)は他では類を見ない典型的な紫色を帯びた淡紅色をしているなど、当公園が保有している品種がとて貴重であることが判明した。

当公園が保有する江戸椿以外の特に貴重なコレクションとしては18品種あり、江戸時代に各藩が作出した、尾張の「紅妙蓮寺」(べにみょうれんじ)、久留米の古種でシーボルトが持ち帰り欧米諸国で人気を集めた「正義」(まさよし)や「吹上絞」(ふきあげしぼり)などの名花や、近年長崎県五島列島で見出された「玉之浦」(たまのうら)などの人気品種、学術的に貴重なユキツバキとチャの自然雑種である「炉開き」(ろびらき)などがあり、これらと江戸椿を合わせた146品種は、後世に引き継ぐべき特に貴重なコレクションである。

ちなみに本コレクションは、1972年、埼玉県内に西武鉄道(株)が長瀬花木園を開設するにあたり全国各地からツバキ500品種ほどが集めたものを元とし、1977年長瀬花木園が閉鎖されたことに

より西武造園を經由して長瀬花木園のツバキ品種が当公園に導入された経緯がある。西武造園が収集した江戸椿の主たる品種は埼玉県川口市安行の皆川椿花園から導入したものと推定される。皆川椿花園の江戸椿は、明治の初期から中期に染井が市街化されて衰退した植木屋から引き継がれたものである。「椿花集」も皆川椿花園によって何度も改版印刷されている。

#### 【引用文献】

- ・日本ツバキ協会編. 1998 年. 「日本ツバキ・サザンカ名鑑」. 359 ページ. 誠文堂新光社.
- ・日本ツバキ協会江戸椿研究会編. 2003 年. 「江戸椿」改訂2版(附「伊藤小右衛門、伊藤重兵衛、伊藤留次郎、伊藤金五郎. 1879 年. 「椿花集」」.

■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数(保有植物リストおよび写真は、別紙「保有植物リスト・写真ファイル作成要領」にしたがい提出)

品種数:146 品種(江戸椿以外も含む)、個体数:各品種につき、およそ 1~数本

品種名は「日本ツバキ・サザンカ名鑑」(誠文堂新光社・日本ツバキ協会編、1998 年)に拠る

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

江戸椿品種総数約 200 品種 (1879(明治 12)年発行の「椿花集」による)、

このうち 40 品種は絶滅したか入手困難な品種で、現存するものは約 160 品種。

当園保有品種数 128 品種

江戸椿以外のツバキ品種は約 370 品種(「日本ツバキ・サザンカ名鑑」. 1998 年. 誠文堂新光社.

日本ツバキ協会編)に拠る)、今回申請する品種は 18 品種、

■コレクションの栽培管理状況(所在地が分散している場合は、ここに全てを列記)

ツバキの見どころが第二苗圃および椿園の 2 か所にある。

第二苗圃においては、区画に分けて数年毎にローテーションで剪定を実施している。樹高を一定の高さに抑えるように剪定しており、出来るだけ目線の高さで花を観賞できるようにしている。

椿園においては、基本的に自然樹形での管理としている。そのため、品種による樹形の違いなどを見ることができる。

両箇所とも病虫害や枯損等については、その都度薬剤散布、捕殺や枯損撤去の対処をしている。

■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

コレクションについては、デジタルファイルの管理台帳、植栽位置図にて管理を行っている。

■コレクションのラベル表記状況(栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど)

当公園では品種ごとに樹名板を設置している。樹名板には品種名(漢字、カタカナ)、学名、品種の特徴を表示している。第二苗圃にある江戸椿の各個体には判別しやすいように赤い吊りラベルおよび赤いシールによる番号を付けて管理をしている。

■コレクションへの協力団体・協力者(種名の同定、導入など)

- ・日本ツバキ協会(品種同定や品種の情報等)

・日本ツバキ協会の専務理事・高野末男氏と年間を通じた情報交換を行い、開花シーズンに高野氏を講師とするガイドツアーの実施

・日本ツバキ協会会長・箱田直紀氏はツバキの開花時期に視察、情報交換

■コレクションの長期保存のための方策と体制(増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等)

・樹勢が弱い品種や貴重な品種を選別し、優先的に挿し木繁殖をして保全を行なっている。

・当公園内の第二苗圃および椿園の両方にて危険分散を意識しながら保有している。

・当園で保有していない品種については、分譲等で導入できるよう情報収集をしている。

・品種の同定等において、日本ツバキ協会より助言をいただいている。

・同じスタッフが長期的に携わるようにし、品種同定や管理を行っている。

また、新規の現場スタッフには管理の質を継続できるよう、実地指導を実施している。

■コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績(研究等を含む)

●コレクションの公開の現状と利用実績

第二苗圃の公開は、例年11月中旬～4月中旬としている。

椿園は、年間をとおして公開している。特に、3月から4月中旬にかけて主な品種が多く開花するため、多くのツバキ愛好家に楽しんでいただいている。

例年3月～4月に椿の開花にあわせて、ツバキをテーマとした企画展を開催している。企画展の内容は、当公園にて保有しているツバキの写真パネル紹介、江戸椿のパネル説明や一輪挿し等の切り花、変わり葉の展示やドライフラワーの展示、ガイド等を実施している。

宮内庁に保管されていた江戸時代に作成されたと言われる「椿花図譜」の復刻版を展示している。

剪定後の枝葉は地域の草木染め団体に分譲し椿灰を作成。

国立科学博物館の2021年特別展「植物 地球を支える仲間たち」において当公園の品種「十八学士」が樹脂標本として展示された。

●広報等実績

・2016年2月16日発行「BISES No100号」P.48-52掲載

・日本ツバキ協会2019年1月20日発行「椿57号」P.48-52掲載、2020年1月20日発行「椿58号」P.43-46掲載、

・コーベ・カメラ・ソサエティ 2018年発行「カメラン No58」P.26-33掲載

・埼玉新聞2019年2月7日、2019年2月14日、2019年2月21日、2019年4月4日、2019年4月11日、2019年12月5日、2019年12月19日、2020年1月23日掲載

・東京新聞2019年2月21日、2021年2月14日掲載

■今後の方針

日本ツバキ協会との連携により、正確な品種同定や保全を継続するとともに、他施設のコレクションについても情報収集を図り、当公園で未保有の品種については譲受等の依頼を行う。このようにして今後も江戸椿の品種コレクションの充実を図る。

また、江戸椿をはじめとしたツバキの魅力を広く周知していくために、より多くの方がツバキに関心を持つような企画展を実施していく。そして、これらの貴重なツバキが当公園のアピールポイントとしての役割を果たし、さらに後世に引き継がれていくように適正な管理に努めていきたい。